

## 大槌に本拠地

### 海洋調査船 進水式

三陸沖の漁場の復興に向け活躍が期待される、「海洋調査船」の進水式が15日山口県下関市で行われました。船の本拠地は大槌町となります。船は独立行政法人、「海洋研究開発機構」が震災後に三菱重工に発注したものです。東北の再生を願い「新青丸」と名づけられました。東日本大震災では海底の変動や津波で三陸沖の海底が影響を受け、獲れる魚の種類が変化したということです。新青丸は調査中に船が流されない「自動定点保持装置」や、海底の地形の音波測定器などを備え、漁場の回復に向けた本格的な海洋調査を行います。船はこれから内装を整え、早ければ6月に引き渡される予定です。



## 大船渡発

### 「早採りわかめ」収穫最盛期

大船渡市では三陸の海に、春の訪れを告げる早採りわかめの収穫が最盛期を迎えています。早採りわかめは3月から4月に収穫される通常の養殖わかめを大きく育てるために間引きされるわかめの新芽です。1m程に成長して収穫期を迎えた早採りわかめは新芽ならではの柔らかさがあり一足早く味わえる春の味です。大船渡湾内の養殖施設は震災で壊滅的な被害を受けましたが復旧が進み、浜には活気が戻りつつあります。(2/16岩手日報IBCニュース)



## 陸前高田発

### さんりく元気ラジオ

今週は陸前高田災害FMの松野壮志さんが、陸前高田市米崎町にある「再生の里ヤルキタウン」から中継で伝えてくれました。ここは「憩える！集える！元気を発信する！みんなのコミュニティ広場」をコンセプトに展開しているコミュニティスペースで、昨年12月にオープンしました。理事長の熊谷耕太郎さんは、「復興・復旧のためにも、まずコミュニティの場を作り、孤独死など二次的被害者を絶対に出さないようにしたい。」と話していました。



## 大槌発

### 「湧き水」など自然環境に関する勉強会



豊かな湧き水など独自の自然環境を復興のまちづくりに生かそうと、大槌町で勉強会が開かれました。勉強会は町の復興プロジェクトチームの主催で行われました。そしてアドバイザーとして招かれた2人の専門家が、大槌町内の豊富な湧き水やそこに生きるイトヨなどの貴重な生物について説明しました。震災前から大槌で湧き水の環境を研究している大同大学の鷲見哲也准教授は「復興計画に沿って盛り土をすれば湧き水は使えなくなるが、公園内に水辺環境を作ったり計画の一部修正で生活の中に取り入れることは可能だ」と提言しました。震災からの復興が急がれる大槌町ですが、ハードだけでなく、地域のソフトの魅力を生かしたまちづくりが、検討されています。(2/20ニュースエコー)

プロジェクトチームの主催で行われました。そしてアドバイザーとして招かれた2人の専門家が、大槌町内の豊富な湧き水やそこに生きるイトヨなどの貴重な生物について説明しました。震災前から大槌で湧き水の環境を研究している大同大学の鷲見哲也准教授は「復興計画に沿って盛り土をすれば湧き水は使えなくなるが、公園内に水辺環境を作ったり計画の一部修正で生活の中に取り入れることは可能だ」と提言しました。震災からの復興が急がれる大槌町ですが、ハードだけでなく、地域のソフトの魅力を生かしたまちづくりが、検討されています。(2/20ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>

IBC復興支援室事務局 019-623-3122